

南本牧廃棄物最終処分場における放射性セシウムの低減対策について

1 趣旨

南本牧廃棄物最終処分場の放流水中の放射性セシウムは現在まで「不検出」ですが、さらに安全性の向上を図るため、処分場や焼却工場において、ゼオライトやベントナイトのセシウム吸着効果を活用した飛灰からの溶出防止対策について、検討しております。

これらの対策をより効果的なものとするため、南本牧廃棄物最終処分場において「締切堤」を設置することで、さらなる安全確保に努めていきます。

2 現在の埋立方法

現在、飛灰につきましては、既に水深が浅くなっている区域において、陸地から重機によって主灰を埋め立てた後、その場所に穴を掘って飛灰を埋め立てることで、できるだけ飛灰と水との接触を避ける方法で実施しています。

3 飛灰の分離埋立の実施

ごみ焼却灰の主灰や既に陸地化した部分を掘削して得られた掘削物などを用いて、処分場の内水部分に締切堤を設けます。この締切堤で仕切られた場所及び締切堤をつくるために掘削した場所を飛灰の埋立ゾーンとします。

飛灰の埋立ゾーンを設けることにより、①飛灰に添加されたゼオライトやベントナイトによる放射性セシウムの吸着効果の向上（今後、各焼却工場で順次添加を開始予定）、②締切堤の材料が持つ吸着作用により放射性セシウムの内水への流出を防止する効果、が期待できるとともに、③飛灰を特定の場所に集めて埋め立てることにより、水質対策等を効果的に行うことが可能となります。

【締切堤の設置概要】

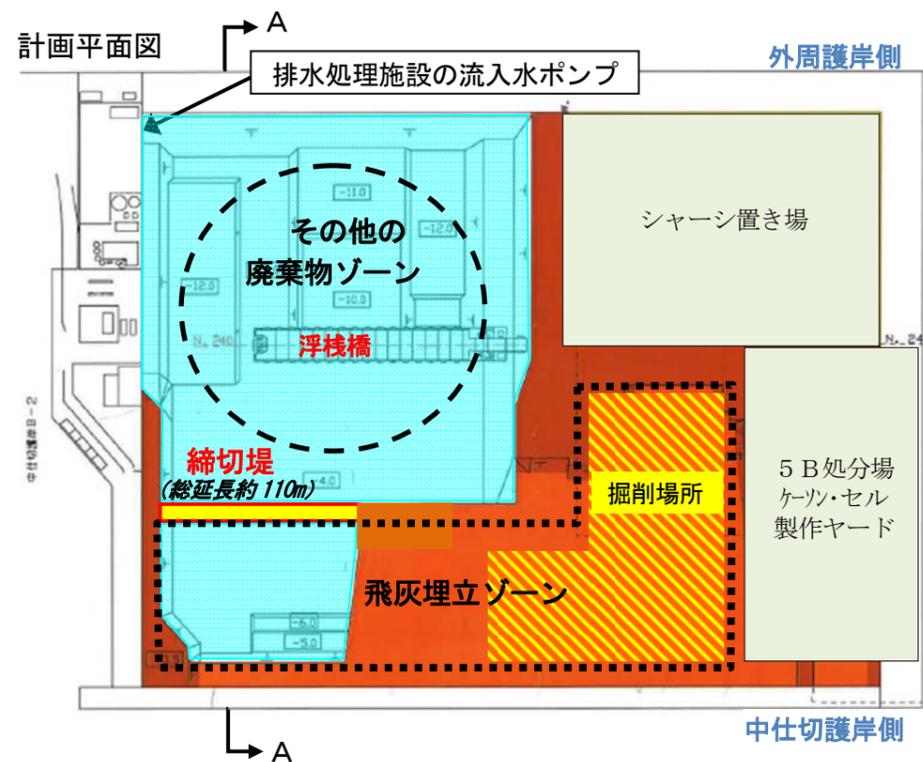
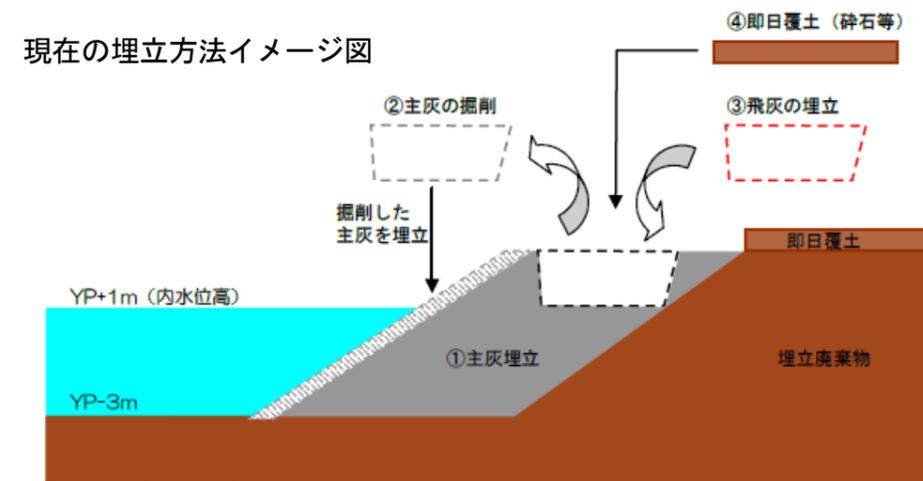
- (1) 所要期間 約4か月（予定）
- (2) 概算経費 約130,000千円
- (3) 使用重機等
 陸地部：バックホウ2台、ダンプトラック3台、等
 内水部：バックホウ台船1隻、土運船2隻、等
- (4) 今後のスケジュール
 平成24年1月 地元説明
 その後 締切堤設置作業の開始

使用重機イメージ

バックホウ台船



土運船



締切堤の断面イメージ図

